

平成 29 年度 第 2 回北杜市健康づくり推進協議会 議事録

1. 審議会会議の名称：第 2 回北杜市健康づくり推進協議会
2. 開催日時：平成 30 年 1 月 31 日（水）午後 3 時～午後 4 時 10 分
3. 開催場所：北杜市役所 西会議室
4. 公開・非公開別：公開
5. 傍聴人の人数：0 人
6. 議事
 - (1) お宝いっぱい健幸北杜宣言 健幸づくり事業について
 - (2) 自殺対策計画策定について
 - (3) 食に関する実態調査について
 - (4) 産婦健診・新生児聴覚検査費助成事業について
 - (5) その他
7. 出席者 委員 12 名
吉田和徳 岩佐敏 高橋達郎 高見澤千恵 浅川敬子 桜井ひろみ 小林忠雄
横森勝 櫻井彰一 原かつみ 浅川隆 坂本正輝

事務局 18 名
市民部長 篠原直樹 福祉部長 織田光一
健康増進課 浅川辰江 中田はるみ 長田恵美子 興水秀子 藤原友美
堀内真理子 篠原真規子
介護支援課 三井ひろみ 廣瀬佐智子
ほくとっこ元気課 伴野法子 浅川享子 津金胤寛 佐藤悦子 増山さゆり
福祉課 八巻弥生
子育て応援課 中田治仁
8. 欠席者 3 名
市瀬真 小林隆次 刃刀孝次郎

9. 署名録委員

浅川敬子 櫻井ひろみ

—午後3時開会—

10. 開会あいさつ

11. 議事

(1) お宝いっぱい健幸北杜宣言・健幸づくり事業について

《事務局》お宝いっぱい健幸北杜宣言代読、〈健幸北杜〉若者世代からの健幸づくりプロジェクト事業 資料1説明

○質疑

《委員》愛育会では、若いお母さん方が安心して総合健診が受けられるよう健診時託児を実施しています。愛育会の託児を利用したお母さん方の評判・効果はどうか、受診率が増えたか教えて頂きたい。

《事務局》受診率は大きな伸びにはつながっていない。託児を利用した母親からは、愛育会で託児をしてもらい、ゆったりとした中で健診を受けられ、安心して預けられる。来年もありますか。予約で申し込まなかったが、利用していいかとの声もあった。若い世代の方に一人でも多く受診をしてもらいたい。愛育会の託児の協力には感謝を申し上げます。

《委員》愛育班員も高齢化もあるが、お母さん方に声をかけていきたい。

(2) 自殺対策計画策定について

《事務局》地域自殺対策計画策定の義務化と自殺対策の推進について 資料2説明

○質疑

《議長》北杜市の自殺の現状を説明してください。

《事務局》平成21年から平成28年の8年間で89名が自殺でなくなっている。29歳以下で13人、19歳以下3人。30～69歳が56人、70歳以上が20人。若年では自殺が死因の1位。全国では年間21,703人。山梨県は143人で全国ワースト7位。平成29年は全国ワースト3位。平成28年度北杜市は県内でワースト4位です。

《議長》自殺する原因は何ですか。

《事務局》統計で調べている最中だが、同居している方が多い。独居だけではなく、複数家族でも自殺している。女性よりも男性が多い。背景は来年度分析し申し上げたい。

《委員》計画に盛り込む内容は国から示されているのか。

《事務局》地域の自殺実態プロファイルが示され、自殺の背景として家庭・経済・生活

問題、金銭、複雑に関係している、地域をあげて関係各機関が取り組むべきとされている。福祉、介護や高齢者、教育委員会、健康増進課、なども含まれている。地域の視点では、観光も含まれる。

《委員》多方面で作成になるが、市の対応としては、各部署と相談しての計画策定となるのか。

《事務局》今回作成する3年間の計画においては、健康づくりの普及啓発の部分が強くなっていく。各部署できちんと対応できる場所が変わってくる。地域共生社会の実現に向けた地域福祉の推進では、社会福祉法に基づく市町村の包括支援体制の整備に関する指針が出されている。地域福祉計画に盛り込むべき事項で、自殺対策の効果的な展開を視野に入れた支援のあり方が計画の中に入っている。健康増進課は健康教育、普及啓発が主だが、福祉計画では今申したようなもの、高齢者の自殺も多くなっている。介護支援の分野、若年層で母子保健の普及啓発、学校教育との連携など各部署と計画の整合性を併せて立案していく。

(3) 食生活に関する実態調査について

《事務局》食生活に関する実態調査の実施について(案) 資料3説明

○質疑

《議長》子どもと保護者の数を合わせると何人か。

《事務局》3千人くらい。

《委員》調査人数を増やし、調査することはいいが、結果が出て、働きかけるまでに1年はかかってしまう。親や子どもへの働きかけを早くしてほしい。

《議長》1年後にならないように、忙しいと思うが、結果を早く役立つようにしてほしい。

《事務局》がんばります。

《委員》子どもと保護者の関連性をどのように考えているのか。アンケートは小学生と中学生では内容は同じものではないと思うが、小学校1年生はアンケートするだけで1時間かかってしまう。目的として関連性を分析するとあるが、どの程度のアンケートを考えているのか。

《事務局》アンケートの内容については、大学の先生や養護教諭の方々にご意見を聞きながら、考えていきたい。市としては小学校1年生から中学校3年生を対象と考えていたが、意見を聞き対象も再度検討が必要であると感じた。関連性については、親の食事への考え方が子どもに反映するかアンケートで聞ければと思っている。

《委員》アンケートは親の回答と子どもの回答が連携するような内容になるのか。

《事務局》回答が連携するような内容を考えている。

《委員》時間をかけないですむアンケートで、いろいろな情報が収集できるよう、検討してもらいたい。よろしくお願いします。

(4) 産婦健診・新生児聴覚検査助成事業について

《事務局》産婦健康診査費助成事業について、新生児聴覚検査費助成事業について 資料4説明

○質疑

《議長》初めての試みですね。ご質問はありますか。

《委員》産婦健康診査は通常いくらかかるのか。県内すべてで同じ上限が決められているのか。

《事務局》検査費用はおおむね5千円前後。県内ですでに実施している市町村もあるが、山梨県が中心となり4月1日から足並みをそろえ各市町村でスタートになる。

《委員》無償で受けられるのですか

《事務局》各医療機関で金額設定は差があるが、ほぼこの範囲で収まります。

《委員》今までは必ず受けなくてはいけない検査だったのか。

《事務局》任意の検査だった。

《委員》無料化で全員に受けられるようになったのか。

《事務局》全員の方になるべく受けていただくよう声掛けしていきたい。

《委員》健診については委託医療機関となっているが、甲陽病院では健診ができるのか。

《事務局》甲陽病院は産婦人科でなく婦人科なので健診はできません。聴覚検査は子どもを出産した医療機関で入院中に検査を受けていただくこととなる。北杜市民は長野県の医療機関を利用する方もいるので委託できるように進めている。

《委員》産婦健診の助成回数が2回以内なのはなぜか。1回で済むような場合もあるのか。

《事務局》助成については、産後2週間、産後1か月の産後間もない時期が重要視されている。

《委員》新生児聴覚検査は長坂の助産院などは他の医療機関に委託して行なうのか。

《事務局》ほとと助産院は機械がないので、他の医療機関受診となる。

《委員》入院中にできないと搬送されるのか。

《事務局》検査は産科や耳鼻科でもできる。

《議長》耳鼻咽喉科は北杜市内には専門医がいないので、葦崎や長野に行ってしまうのか。

《委員》生後2～4日の期間にしないといけないわけではないですよ。

《事務局》入院中が一番いいが、生後2か月内に受診して頂ければ助成の対象となる。

《委員》産後うつは1週間で済むのか、育児をしていて行き詰まり、だんだん進むことがあるのでは。期間を過ぎたら適応しないのか。発見するためのものか。

《事務局》市では新生児に対し全戸訪問を行っている、2週間・1か月で産科を受診する。産科で心配なお母さんがいれば、速やかに連絡が届くので、保健師・助産師等が関わりを持ち、段階段階で心配な方がいらっしゃれば支援している。

《委員》それは保健師や助産師が対応してくれるのか。

《事務局》保健師も地区を持っているので、利用者支援専門員が訪問しているケースもある。特に心配事があれば保健師や助産師が訪問を開始している。

《委員》補助があれば、お母さんも安心して子育てができるが、経済面での支援はこれだけですか。

《事務局》養育支援ヘルパー事業もある。ヘルパーを派遣して家事や育児を支援してもらう事業である。1回1時間 500円負担である。また石和に産後ケアセンターがあり、育児に疲れた母が宿泊して保健師が問診したりしている。市でも費用の助成を行っている。

《委員》4か月までですよ。

(5) その他

《事務局》「2017いいことチャレンジ健康ほくと」実績報告 資料5説明

《事務局》「市民と取り組む健康づくり（特定健診未受診者対策）事業実施要領 資料6説明

○質疑

《委員》いいことチャレンジ健康ほくと事業を知らなかった。とてもいい事業。実績が増えたのはなぜか。助成をしているのか。

《事務局》健康意識の向上を目的に、健康に関するキーワードで、無尽でストレス発散、一人でウォーキング・ラジオ体操など内容は問わず、健康に関するものなら何でもいいと呼び掛けた。報告はネックになっていた。今年度報告者数が上がったのは、9月の健康教室や健康事業でも呼びかけをした。事業への補助金は出していない。市民の自発的な取り組みである。

《委員》資料6の特定健診未受診者対策ですが、この会議で話し合った内容が事業に生かされてとてもよかった。苦勞と思うが、ぜひ地域へ出向いて、健康づくりが推進されることを期待している。よろしくをお願いします。

《委員》受診率が低い明野町の2地区とは何か。

《事務局》男性の受診率が低い明野町での2地区という意味です。

《議長》全体について質問はありますか？

《委員》食生活に関する実態、調査内容に関わることで、学校の子どもたちの様子を見ると、家族構成が影響していると感じる。アンケートにどのように反映させるか。他の委員からも出たが、計画づくりのためのアンケートにならないように。食の問題は喫緊の課題なので、速やかに分析してアクションを起こしてほしい。学校では学校保健委員会などで議題に載せながら、保護者への啓発も行っているが、なかなか家庭にはうまく踏み込めていない。食事のバランスの悪い子は非常に増えてきている。指導につなげていただきたい。

《委員》(受診率が低いのは)明野は別荘などの新住民か、昔から住んでいる住民なのか。
《事務局》明野町の40～50代の受診率が低いということで取り上げている。高齢者は受診率が高い。若い世代は市内全体に受診率が低い、明野が特段低いというわけではない。
《議長》健康長寿はトップクラス。無尽がいいといわれている。食塩の摂り方もトップクラス。漬物やお刺身にしょうゆをかける、女性は歩かない人も多い。なぜ健康寿命が高いのか七不思議といわれている。出生が減っているのが気がかり。200人を切っている。知事もいっていたが、人口減少は止まらない。これから高齢者になるので、最低でも健康でいたいと思う。啓発活動に力を入れてもらいたい。

《委員》私はもともと甲府だが、こちらの人達はタバコを吸う人が多い。計画の中でも禁煙を訴えているが、具体的な方策を聞きたい。飲食店でも分煙が北杜市は進んでいない気がする。オリンピックもあるし、海外からのお客さんも増えるので、分煙への働きかけがあればいいと思うが市の対応を教えてください。

《事務局》これまでの健康増進課の取り組みとして、健診の質問項目で禁煙に興味のある方には、パンフレットを渡した。結果報告会でもコーナーを設け、禁煙に関する教育もモデル地区を設けて行った。健診の待ち時間を利用し禁煙教育や禁煙の取り組みをしている医療機関などを紹介した資料を配布した。

《委員》最近流行の電池式・加熱式タバコなどがあるが、教えてください。

《委員》アイコス紙巻タバコよりも煙が少ないので、周囲への受動喫煙が少ないといわれている。タバコを燃やさないで、タールも激減するといわれている。周囲への受動喫煙も少ないとタバコ業界は説明している。アイコスの出す蒸気を科学的に分析した結果も出てきているが、ニコチンの量は紙巻タバコと変わらない。タールは減っているが発がん物質のホルムアルデヒドやアセトアルデヒドなどの有害物質は紙巻タバコとほとんど変わらない。アイコス吸った息にもそういった成分が含まれ、無害ではないとわかっている。アイコスは紙巻タバコに準じたものだと思っています。

《議長》その他、質問がありますか、なければ以上で終了したいと思います。活発なご意見・質問ありがとうございました。

— 《議事終了》 —

13. 閉会あいさつ

— 午後4時10分閉会 —

署名録委員 氏名

氏名